

元気あおもり応援隊会議（大阪圏）

「元気あおもり応援隊会議（大阪圏）」を令和2年10月23日（金）午後5時45分から大阪第一ホテル（大阪府大阪市）で開催しました。

当日は、15名の応援隊の方々が参加し、会議では「食と観光による経済の早期回復と持続的成長」をテーマに意見交換を行いました。

その概要は、次のとおりです。

（青森県知事 三村申吾）

本日は、大変お忙しい中、「元気あおもり応援隊会議」に御出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆様には、それぞれのお立場から、様々な場面で「青森の元気づくり」に御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会議は、県外で青森県を応援していただいている皆様と意見交換を行う貴重な機会であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、皆様におかれましても大変な御苦勞をされている中、この度、感染防止対策をしっかりと講じた上で開催する運びとなりました。皆様の御理解と御協力に心から感謝申し上げます。

青森県ではこれまで、「生活創造社会」の実現に向け、「世界へ打って出る」視点も取り入れながら、「攻めの農林水産業」の展開をはじめ、「経済を回す」取組を特に重点的に進めてきました。

その結果、農業産出額や農林水産品の輸出額が堅調に伸びたほか、外国人延べ宿泊者数や創業・起業件数も増加するなど、様々な分野において取組の成果が着実に現れてきたところでした。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、本県においても幅広い分野に大きな影響を及ぼしており、更なる長期化も懸念されています。

このため、本県では、感染拡大防止と医療提供体制の整備に加え、地域経済と雇用を支えるために必要な対策を適時適切に講じてきたところであり、特に県内経済の早期回復に向けては、青森県の強みであり、「経済を回す」取組のけん引役である農林水産分野や観光分野等における取組を強化しています。

また、世界遺産登録を目指す本県の三内丸山遺跡をはじめとする「北海道・北東北の縄文遺跡群」の状況につきましては、去る10月15日、世界文化遺産登録における審査の山場でありますイコモス、国際記念物遺跡会議の現地調査が来て、無事終了いたしました。後は、国際会議が順調に開かれることが重要となりますが、2021年の登録実現に向けて大きく前進したところです。今後も、関係自治体と連携・協力のもと、登録後を見据えた各種施策に全力で取り組んで参りますので、応援をお願いします。



さて、本日は、「食」と「観光」の強みを生かした青森県の取組について御説明をさせていただきますので、皆様方には忌憚のない御意見、御提案を賜りますようお願い申し上げますとともに、本県のイメージアップや情報発信などへの一層のお力添えも重ねてお願い申し上げます、御挨拶といたします。

【「食と観光による経済の早期回復と持続的成長」】

※農林水産部長と観光国際戦略局長が、資料に基づき県の取組を説明

(知事)

我々は、新型コロナウイルス感染症の影響にも全然へこたれない、次に向かって反転攻勢していこうという気持ちです。

苦しい時は、やはり得意分野をもう一度見直して、そこから再スタートを切っていこうと考えています。美味しいものが一杯の青森だから、農林水産分野では、「攻めの農林水産業」を進め、そして新しい特産品も開発しながら踏ん張っています。観光分野では、観光国際戦略局を立ち上げて、インバウンドを約 6 倍に伸ばした状況であったので、それが一気に落ち込んで非常に苦しい状況でしたが、最近、やっと宿泊客が戻りつつありました。

そうした中で、弘前のいわゆる接待を伴う店で非常に大きなクラスターが出てしまったことは、非常につらいところです。PCR 検査も、毎日、次々やり続けて、感染経路等の捕捉に努め、抑え込みに全力を尽くしていきます。

そういった状況ですが、皆さん、またいつか青森に来て、頑張っている県民を励ましてあげてください。よろしく申し上げます。

(原田俊一氏)



2019 年産の青森りんごの販売金額は約 1,098 億円で、6 年連続で 1,000 億円を超えています。他産地の在庫量が少なかったことや、新型コロナウイルス感染症の拡大による巣籠り需要で堅調な相場推移となったことなど、いろいろ要因があるかと思いますが、過去 10 年間で最高額を記録したということで、知事、おめでとうございます。

青果市場として、産地や生産者に貢献できることは、安定価格で販売し、生産量を維持・拡大してもらうことだと考えています。

そのためには、現行の台湾、香港主体の海外輸出を世界的に拡大すべきであろうと思います。

弊社では、マレーシア、シンガポール、タイ、グアム等への輸出を拡大していきたいと考えていますが、青森県として、りんごを中心とした農産物の輸出を今後どのように展開していくのか、またどのように考えているのか、お聞きしたいと思います。

(知事)

輸出は、私も気合を入れて取り組み、台湾も香港も攻めていたのですが、今年は5月から現地に行くことができていません。

しかしながら、台湾と香港に「青森りんご友の会」をつくるなど、現地との信頼関係を築いてきたことにより、こういう状況にあっても、現地と映像でやり取りしたり、それを台湾のテレビが中継してくれたり、いろいろな形で積極的に攻め続けることができています。

本年度は、イオンとともに新たにカンボジアを開拓しようとしています。もちろん、タイ、ベトナム、マレーシアなども引き続き攻めていこうという気持ちです。

(観光国際戦略局長)

青森りんごの輸出は、おかげさまで3年連続3万トン、そして6年連続100億円を達成しています。

その中で、主力は台湾、香港ですけれど、今、現地には行けないので、オンラインでいろんな商談やプロモーションをしているところです。その分、普段現地に行くよりかなり頻度を高めていまして、先ほど知事から話がありましたが、例えば、本来であれば知事が台湾に行ってプロモーションするところを、現地の店舗と弘前のりんご公園をオンラインでつないで、現地の人と双方向でやり取りをするなどしています。

これからの展開としては、もちろん現地に行けるようになればしっかりフェイス・トゥ・フェイスでいろんな商談をしていくわけですが、現状としては、現地のeコマースと実店舗を連動させた取組を行いながら、本格的な反転攻勢につなげていこうとしているところです。

(知事)

もう一步も引かずという気持ちです。

今年のりんごの収穫量は約45万トンと見込まれており、去年より1割多いので、やはり安定的に輸出していかないと国内販売が非常に厳しくなるものですから、踏ん張っていきます。

(藤岡勇貴氏)



現在、サンテレビ(兵庫県)でキャスターをしていますが、以前は青森朝日放送で8年間アナウンサーをしていた元青森県民でもあります。

私からは、今年3月に就航したFDA、フジドリームエアラインズの青森・神戸線を守り抜いてほしいということをお願いしたいと思います。

それは、単に私が青森に行きやすいからではなくて、この路線にはそれだけの潜在力があると考えているためです。

路線の就航時には、サンテレビにも三村知事に出演してもらいました。まさに「さあ、これから」という時に、新型コロナウイルス感染症が拡大し、知事が多分一番悔しい思いをしたでしょうし、私たちも非常に残念でした。

関西の人が旅行に行くといえば、どうしても北海道、沖縄が浮かんできます。青森、東北にという視点になかなかありません。なぜかという、LCC の格安便が飛んでいるからだと思いません。北海道、沖縄に片道 1 万円以下で行けるとなると、やはりそちらに行ってしまう。年配の方、お金を持っている方は青森に行こうかな、という発想も出ると思うのですが、若い方、あるいはあまりお金がない方は、安い航空便があるところに旅行に行こう、というようになると思っています。

FDA は LCC ではないのですが、とても安い価格で販売してくれていますので、かなり青森に行こうかなと思う方が増えるのではないかと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響がなければ、価格優位の点できっとこの路線は高い搭乗率を維持していたのではないかと思います。潜在力があると話したのはそれだけではありません。

実は、神戸空港は、去年の 5 月に規制緩和され、1 日の発着便数が 60 便から 80 便に増え、青森・神戸線も 1 往復 2 便で就航できました。ただ、兵庫県側としては、本来、1 日 120 便への拡大、そして国際チャーター便を狙っていて、これを実現できなかったわけですが、この時、これ以上は大阪万博の 2025 年に合わせた中長期の課題と位置づけられました。ということは、第二弾の規制緩和があるはずで。

ですので、短期の目線では、このコロナ禍を乗り越えて、青森・神戸線を守り抜き、そして、時間帯が少し悪いので、次の規制緩和に向けて、ぜひ朝夕 2 往復への増便にチャレンジしてもらいたいと思います。

(知事)



FDA は、東日本大震災の時に東北復興の支援ということで、青森・名古屋線を 1 日 1 往復で就航し、それが夏は 1 日 4 往復にまで成長しました。今は新型コロナウイルス感染症の影響で 3 往復や 2 往復になったりしているのですが、お互いに潜在力を伸ばしてきたと思っています。

就航にあたって、FDA の社長が青森・神戸線は確実にいける、と判断してくれました。なぜならば、青森と神戸は、りんごや米などの

の県産品の取引でつながりが強くなっているからです。さらに、JAL が FDA とコードシェア（共同運航）をすることによって伊丹空港だけでなく神戸空港も使っていこうと決断してくれました。

就航したのは、新型コロナウイルス感染症の拡大が激しくなった 3 月末でしたが、FDA では、この路線は絶対にやる、と強気でスタートしてくれて、途中で休んだりしながらも、しっかり飛ばしてくれています。

我々としては、神戸を押さえることによって、東は西宮から、西は岡山、広島まで狙っていけると考えています。

それと、本県は、三菱重工などの企業とも関係がありますが、その方々の出張が伊丹空港ではなく目の前の神戸から行けるようになり、こういった需要も狙っていけるということで、FDAと連携しながら徹底して利用促進を進めていきます。

(交通政策課)

藤岡さんがサンテレビのキャスターということで、実は本日夕方4時からの生放送の番組で、今週の日曜日まで行われているダイエー三宮店での青森県フェアのPRだけでなく、青森・神戸線のPRもしてもらいました。本当にありがとうございました。

就航早々、新型コロナウイルス感染症の影響をダイレクトに受けて苦戦していたのですが、うれしいことに先週あたりから、GoTo トラベルキャンペーンの影響や認知度の高まりもあり、6～7割ぐらいの利用がある日も出てきており、徐々にお客様が増えています。

私たちとしても、この勢いを更に本物にするべく、様々な形で旅行会社に対するセールスやPR活動を行っています。また、今年9月からFDAとネーミングライツ契約を結び、シルバーの機体に「青天の霹靂号」という名前を付け、いろんなプロモーションを行っています。

青森・神戸線を強く応援してくれる方が関西にいるということは、本当に心強いことです。これからも応援をお願いしたいですし、会場の皆さんも、機会がありましたら、一度、神戸空港からFDAに乗って、ぜひ青森にお越しいただきたいと思います。

(知事)

神戸市長は、青森県庁で課長をしていた経緯があり、津軽の民謡を歌えるぐらい、とても青森が好きで、そういう圧倒的な愛情もあり、一緒に攻めていこうということでやってきました。12月にまた、市長と作戦計画の会議をするのですが、しっかりと増便を目指していこうと思っています。

青森の方々も非常に関西が好きですし、神戸空港と伊丹空港を両方使えることでとても便利になりました。関係機関と連携しながら取り組みますので、テレビでのPRもよろしく願います。

(細田雅人氏)



現在流行している新型コロナウイルス感染症は、来年以降は少し落ち着くと思っています。1日10人しか死なない、季節性のインフルエンザよりも死なないということが分かれば、多分、そんなに騒がなくなると思います。

そうなった時、多分、今までのインバウンドと違う形が生まれてきます。インドネシアをはじめ、マレーシア、シンガポール、インドなどのいわゆるイスラム圏の18億人は、現在欧米をたくさん訪れているのですが、これからアジアにどんどん訪れる時代が来ると思います。

そういう時に、青森県が先駆けてイスラムの人たちに対する様々な配慮ができる県になると、

この 18 億人のインパクトは大きいと考えます。

ムスリムの人たちには本当に厳しい戒律がたくさんあって、青森県としても様々な投資をしないと、彼らを受け入れることはできません。1日5回の礼拝の場所が必要ですし、いろんな準備が必要です。本当に大変ですが、それをやると、それなりにファーストムーバーとしての価値が生まれるのではないかと期待しています。

(知事)

イスラム圏に関しては、実は、我々の一つの決意として、青森空港にメッカの方向を示した祈祷室を設置しました。あとは、ハラールの食について、青森県は豚の生産量がとても多いものですから、処理の仕方等を含めて、勉強会みたいなこともやりましたが、なかなか普及には至っていません。

なお、インドネシアについては、コンビニができると、りんごが売れ、青森のりんごを買ってくれる層が出てくるということで、我々も輸出に取り組もうとしたのですが、港からのコールドチェーンが確保できず、なかなか厳しい結果でした。しかし、インドネシアはものすごい人口ですので、今後、観光面で動きが出てくるのではないかと考えています。

(観光国際戦略局長)

私どもとしては、重点地域である韓国、中国、香港、台湾に注力をしているのですが、今後はイスラム 18 億人も視野に入れたいと思っています。

いきなり営業活動に行くというのは難しいですが、先ほど紹介したように、国境を越えて響くような情報発信などに取り組んでいるところで、弘前の桜や五所川原の立佞武多などの動画に海外の方がけっこう「いいね」をしてくれるという状況でもあります。

それから、ハラールそのものではないのですが、黒石でビーガン（完全菜食主義者）対応の旅館が 4 館に増えたりということもありますので、そういう動きを徐々に広めていきたいと考えています。

(知事)

取っ掛かりは作りましたし、りんごの販売も攻めにいきました。いろいろと問題はありますが、イスラム圏の人口と経済力をものにしたいという思いは同じです。

マレーシアは、比較的順調に輸出も含めてやってきました。観光面はなかなかすぐにはうまくいきませんが、食べ物や生活習慣に対応して、着実に攻めていきたいと思っています。

(細田雅人氏)

実は、弘前大学の被ばく医療総合研究所がインドネシアと深い関係で、それはなぜかということ、インドネシアは自然被ばくエリアがとても多いからです。現地の測定をずっとしていたのが弘前大学の医療グループで、いろんな意味で、コミュニケーションのためのネットワークがあると思っています。

最後に、僕は 1996 年に初めて中国に行きましたが、あの頃はまだほとんど皆、人民服を着ていました。でも四半世紀でこんなに変わってしまいました。インドネシアも多分、あつという間

に変わると思います。

(知事)

コンビニが出来た国は、うちの攻めるところだと思っていますので、頑張ります。

(山田武弘氏)



個人的な話ですが、青森県産品を私の家の近くにあるスーパーでよく見かけるようになりました。昔は関西ではあまり見かけなかったのですが、りんごはもちろん、ながいも、にんにくなどたくさんの県産品が扱われています。

お米も、昔は冷害に強い品種ということで、混ぜるのが当たり前だったのですが、青天の霹靂じゃないですけど、本当においしくて驚きました。知事や生産者の方々の努力の賜物だと思いますし、また、県産品が国内外で広まったのも、知事のトップセールスをはじめ、皆さんの努力の賜物ではないかと思っています。

私どもは、山の会というものをやっており、この20年間で10回ほど青森に20人前後で山登りに行きました。八甲田山、岩木山、岩手山、秋田駒ヶ岳、鳥海山等々、毎年行って、夜は八戸で宴会というのが恒例になっています。また、朝は早起きして、八戸の港市場に行って、イサバのカッチャ相手に話をしながらご飯をいただき、酒を飲むというのが定番になっています。

大阪には「青森・岩手ええもんショップ」があつて青森の美味しいものも手に入るのですが、魚菜市場のような店があつたらいいなという気持ちがあります。例えば、ええもんショップの一角に立ち飲みコーナーや試食・試飲コーナーが出来れば、店に寄る楽しみが増えると思います。

試飲、試食は有料で別に構いません。今、酒蔵などでも有料の試飲がありますので、いろいろお酒を少しずつですけども飲んで、味見ができると、そういうふうなことも少し考えてもらえればありがたいと思います。

実現はなかなか難しいかもしれませんが、来年か再来年に青森県の山へ登ることになると思っていますので、その時には、またおいしいものをたくさん飲んだり食べたりしたいと思っています。

(知事)

青森だけじゃなく、東北のそれぞれの山に登って、その後、八戸に行って、飲んだり食べたりしているということで、感激です。

「青森・岩手ええもんショップ」での取組ですが、許可がどうなるか分からないのですが、チャレンジできるようにであれば考えてみたいと思います。

(総合販売戦略課)

近畿青森県人会の皆さんには、常日頃、県産品を御利用、御愛顧いただきまして、本当にありがとうございます。

「青森・岩手ええもんショップ」は、2016年の7月に堂島地下街にオープンし、順調に売上を伸ばしています。昨年度は9,200万円の売上で、その前のジェンゴという店と比較しますと、約2倍になっています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で4月、5月に休業し、また時短営業等もあり、売上は低いところで留まっていますが、それでも、以前のジェンゴに比べれば増加しています。また、最近は少しずつ持ち直していきまして、新しい取組なども進めたいと考えています。

先ほど、試飲、試食の話もありましたが、感染症の関係で、現在、全国のスーパーマーケット、小売店では、なかなか試飲、試食が難しい状況になっています。

ただ、少しでもフレッシュな県産品を大阪の皆さんにお届けしたいということで、数年前から生鮮品の取扱いを始めたところなんです。その例としては、岩木山麓にある非常に糖度が高いとうもろこし、嶽きみを空輸で運び、収穫される時期に合わせて販売しています。

本数はまだたった千本と少ないですが、今年は8月24日から21日間販売し、おかげさまで完売し、何度もリピーターの方が来るなど、顧客がしっかりと増えてきました。予想以上の反響で、ええもんショップのメンバーもちょっと気持ちが高ぶって、入荷数を増やしながらか約千本まで売っていったということで、金額、件数とも、店舗の中ではずっと一位の商品になりました。

試飲、試食はまだできない状況ですが、こういった新しい取組もしながら、品揃えに特徴を持たせ、故郷のものをたくさんの皆さんにお届けできるよう取り組んでいきたいと思っていますので、今後とも、どうぞよろしくお願ひします。

(塩村浄氏)



観光国際戦略局の施策展開の視点については、非常に総合的に工夫してまとめているというのが第一印象です。

ただ、全国には青森を何とか応援したいという方たちも多くいると思うんですけども、青森をなんとかしなくてはと一番取り組んでいるのは、やはり地元で働いている方々です。ですから、そういう方々にまず分かるような内容にしなければいけません。加えて言いま

すと、そういう農家や漁師の方とか、いろいろな分野の方とかに分かるような文章にするためには、あまりにも横文字が多過ぎます。やはり、日本語で書いた方がより分かりやすいと思います。

資料は非常に知的なセンスで書かれていますけど、そういう人たちも含めて、取組に参加してもらうには、もっと県民の人たちに「そうか、こういうことをやるのなら、私らでも出来そうだな」というような施策の視点、表示の仕方が求められるのではないかと思います。県民全体の総意のもとで、こうした取組がなされるようにしてもらえたら、非常にありがたいと思います。

(知事)

今、配られた絵葉書を見て思い出しましたが、県内の経済はとても厳しい状況になっていますが、回復に向けて「んだ、やるべ」という気持ちが本当に広がっていて、様々なことが始

まっています。

先ほど流した動画も、地場で仕事をしているそれぞれの方々の「頑張ろうよ」という気持ちを映像にしたのですが、気持ちを一つに「んだ、やるべ」ってというような、そういう状況になってきています。

(観光国際戦略局長)

日本語で分かりやすく伝える、日本語で皆さんが共感するという事は、非常に大事な事だと思っています。

私どもも、従来型の観光コンテンツだけではなくて、地域に根差したより深いコンテンツの発掘を15～16年ずっとやってきて、その蓄積が相当あります。

例えば、青森りんご、これは誰も知っていますが、りんごに関連する文化も、一つの房のようにつながってきています。おいしいりんごだけではなくて、りんご箱、りんごの木箱、あるいはそのりんごを収穫する時の竹籠や剪定ハサミ、あるいは冬の農作業の時の天然ゴム100%のボッコ靴など、そういった文化も随時発信して、そういったものに共感する人との共感の輪をつくることもしています。

これまでずっと力を入れてきた取組ですので、応援していただければと思います。

(知事)

そのように裾野をきちんと広げながら、いろんな戦略を各部局とも立てて、進めてきました。少し言葉が足りなかったかもしれませんが、また、これからも応援してください。

(知事)

そろそろ予定している時間となりましたので、最後に皆さんに一言お礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が流行している状況ですが、昨年度、当会議を大阪で開催しませんでしたので、皆さんの顔を見ることができたかと思ひ開催させていただきました。こうして多くの方にお集まりいただき、青森って愛されているなど本当にそう思いました。

事前にいただいた意見について文書でお返りする形になった方には本当に申し訳ありません。いつもであれば情報交換会でいろいろと話ができるのですが、お詫び申し上げます。

それでも、こうして開会できました。本当にうれしく思います。どうぞ、これからも青森をよろしく願いいたします。ありがとうございました。